



〔海の状況 (9/16~10/15)〕

- ・ 神子地先の表面水温… 数日ほど平年をかなり下回る日 (平年差 -1.5°C 前後) があったが、期間を通して概ね平年並み (平年差 $\pm 0.5^{\circ}\text{C}$) に推移した。(図 1)
- ・ 米ノ地先の表面水温… 期間の中ごろは概ね平年並み (平年差 $\pm 0.5^{\circ}\text{C}$) に推移したが、それ以外の期間は平年よりかなり低く (平年差 $-1.0\sim-1.5^{\circ}\text{C}$) 推移した。(図 2)

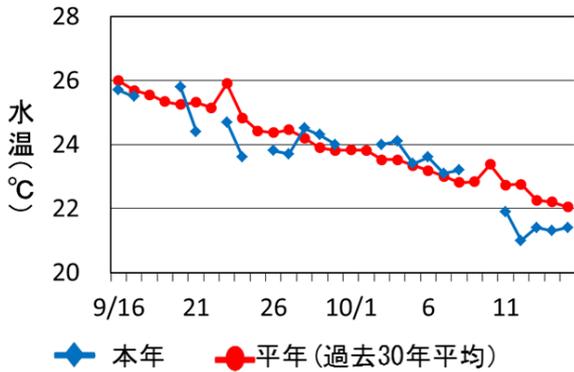


図1. 若狭町神子地先における表面水温の推移

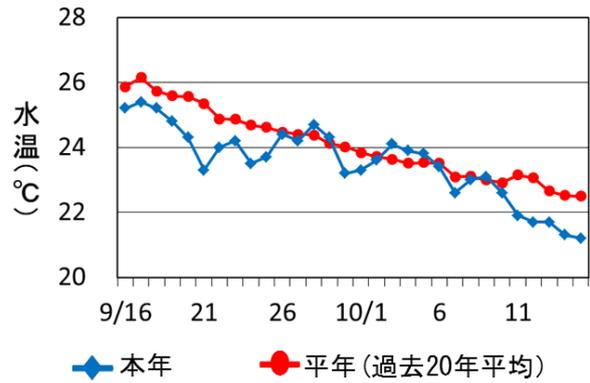
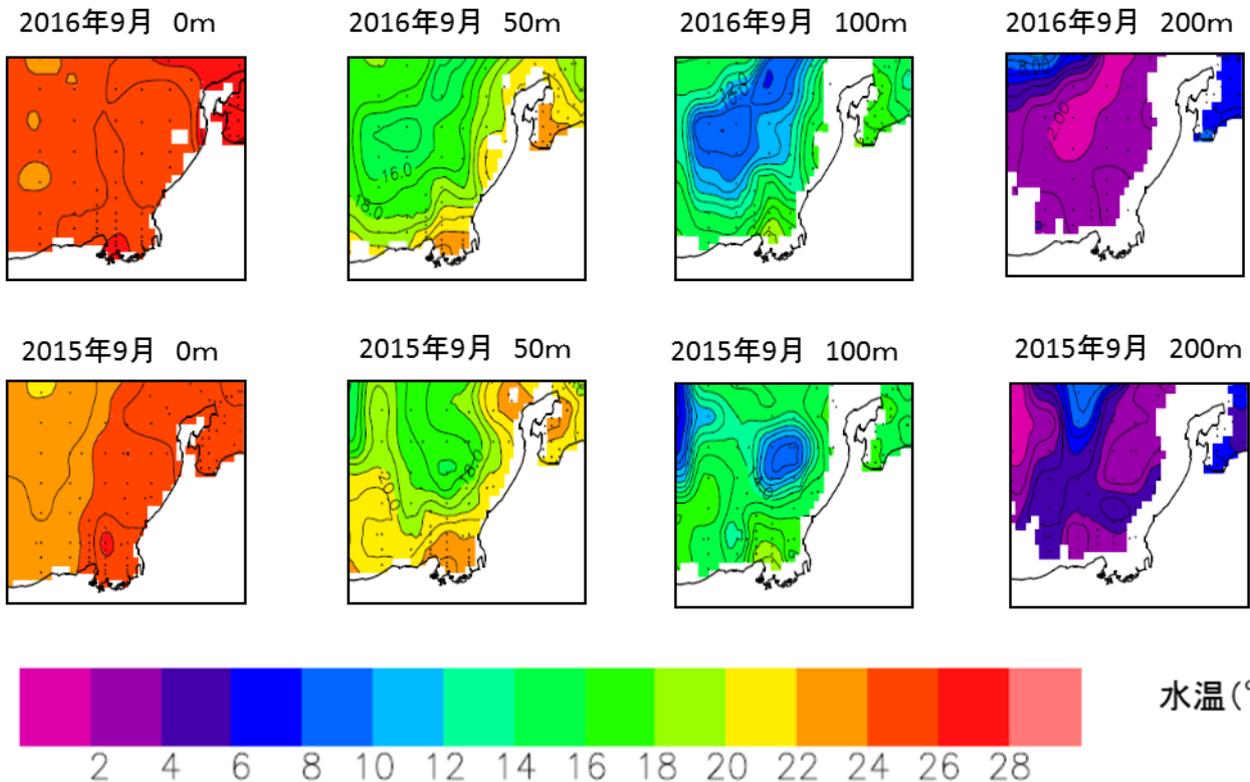


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

若狭湾および周辺海域の水温は、表面(0m)では一部の海域で前年より高く ($24\sim 26^{\circ}\text{C}$) になった。水深 50m、水深 100m、水深 200m では一部の海域で前年より低く (水深 50m $18\sim 20^{\circ}\text{C}$ 水深 100m $6\sim 8^{\circ}\text{C}$ 水深 200m $0\sim 2^{\circ}\text{C}$) になった。(図 3)



若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

平成 28 年度 第 3 回 日本海海況予報

水産研究・教育機構 日本海区水産研究所から発表されました海況予報に、今後(平成 28 年 11～12 月)に関する情報がありますのでご紹介します。

- 対馬暖流域の表面水温は、平年並みで経過する。
 - 対馬暖流域の 50m 深水温は、日本海北部・西部ともに平年並みで経過する。
 - 山陰・若狭沖の冷水域はやや大きく、接岸距離は平年並み。
 - 隠岐諸島北方の暖水域は東進し、能登半島北方に分布する。
- ※水産研究・教育機構のホームページ(<http://www.fra.affrc.go.jp/>)においても閲覧することができます。

〔県内の漁模様：9 月〕

2016 年 9 月の県内の総漁獲量は 1,595t で、昨年同月を 113t 上回った。

〔定置網〕

漁獲量は 1,234t で、昨年同月を 90t 上回った。シイラ、サワラ、アオリイカ等は昨年同月を上回り、アジ類、サバ類、フグ類等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は 302t で、昨年同月を 4t 上回った。キダイ、アカガレイ等は昨年同月を上回り、ハタハタ、キス類等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は 59t で、昨年同月を 19t 上回った。ヒラマサ、キダイ、ソデイカ等は昨年同月を上回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(9月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
アジ類	55,746	106,141	59,321	-50,395	-3,574	その他カレイ	25,259	36,853	41,712	-11,595	-16,453
サバ類	8,565	67,285	18,934	-58,720	-10,369	アナゴ	5,103	5,063	3,832	40	1,271
マグロ類	620	866	768	-246	-148	ハタハタ	277	4,756	2,948	-4,479	-2,671
カジキ類	3,598	2,708	12,686	890	-9,088	メバル類	1,088	1,407	1,305	-319	-216
ブリ類	95,525	101,458	132,063	-5,933	-36,538	キス類	11,958	17,843	11,700	-5,885	258
(ブリ)	174	191	84	-17	90	スルメイカ	3,941	1,879	1,101	2,062	2,840
(ワラサ)	5,155	563	9,917	4,592	-4,762	ヤリイカ	3,538	3,179	1,220	359	2,317
(ハマチ)	6,224	7,866	12,935	-1,642	-6,711	タコ類	6,238	6,835	8,419	-597	-2,181
(ツバス)	68,259	69,333	89,668	-1,074	-21,409	アカエビ	91,066	77,609	61,694	13,457	29,372
(アオコ)	15,712	23,506	19,459	-7,793	-3,746	その他エビ	5,186	7,153	5,430	-1,967	-243
ヒラマサ	3,323	1,469	9,867	1,855	-6,544	その他	52,909	67,468	78,841	-14,559	-25,932
シイラ	175,071	95,682	84,998	79,390	90,073	合 計	302,401	298,467	318,606	3,934	-16,205
サワラ	831,604	729,961	351,159	101,643	480,445	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
マダイ	3,939	2,468	2,161	1,470	1,778	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
その他タイ	2,615	2,222	612	393	2,003	カジキ類	1,618	1,520	152	98	1,466
スズキ	2,015	1,375	1,867	640	149	ヒラマサ	1,645	374	161	1,272	1,484
カマス	6,558	5,683	18,676	875	-12,118	サワラ	1,486	789	118	698	1,369
フグ類	3,766	7,033	5,949	-3,268	-2,183	マダイ	1,474	1,065	2,653	409	-1,179
アオリイカ	10,530	3,646	8,024	6,884	2,506	キダイ	7,302	5,955	6,983	1,348	319
ケンサキイカ	6,014	3,297	5,889	2,718	125	アマダイ	4,815	4,611	4,639	205	176
ソデイカ	2,854	0	591	2,854	2,263	メバル類	3,217	1,636	2,820	1,581	397
その他	21,392	12,876	24,613	8,516	-3,220	アオリイカ	1,199	998	1,959	201	-759
合 計	1,233,738	1,144,170	738,180	89,568	495,558	ソデイカ	10,392	0	9,495	10,392	897
底びき網 (kg)						タコ類	3,696	2,972	4,490	724	-794
魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差	その他	21,816	19,455	43,403	2,361	-21,586
マダイ	737	1,263	1,654	-526	-917	合 計	58,661	39,374	76,872	19,288	-18,211
キダイ	10,805	5,493	11,672	5,312	-867	全漁法 (kg)					
アマダイ	631	708	1,077	-78	-446	魚種名	2016年	2015年	平年	前年差	平年差
ヒラメ	286	306	185	-20	101	合 計	1,594,800	1,482,010	1,133,657	112,790	461,143
アカガレイ	83,380	60,651	85,816	22,729	-2,436	※1 平年の値は2006-2015年の10年平均です。 ※2 ()は総柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。					

※1 平年の値は2006-2015年の10年平均です。 ※2 ()は総柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。
 ※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：9月の定置網の1日あたりの漁獲量。京都府：9月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網の1日あたりの漁獲量。兵庫県：9/1-9/30の余部定置網の1日あたりの漁獲量。鳥取県：9月中旬～10月上旬のまき網の1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類 19.2t、マサバ 3.3t、 Gand(2～4kgのブリ) 2.9t、フクラギ(500g～2kgのブリ) 2.6t、マアジ 1.5t

京都府…定置網…サワラ類 12.3t、シイラ 3.5t、ツバス 1.7t、マアジ 1.6t、サバ類 0.4t

兵庫県…定置網…マアジ 173kg、ツバス 46kg、シイラ 37kg、サワラ 5kg、アオリイカ 4kg

鳥取県…まき網…マサバ 14.7t、カタクチイワシ 13.4t、マイワシ 13.2t、ブリ類 9.8t、マアジ 9.5t、ウルメイワシ 1.8

「越前がに」の資源状況について

今年も、11月6日に「越前がに」漁が解禁されます。調査船「福井丸」により実施したトロール調査結果を基に、本県沖合のズワイガニ資源量を推定しましたので、お知らせします。

漁獲動向 (図1)

福井県底曳網漁業協会の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は増加傾向にあり、近年は500t前後で推移しています。H27年度は、雄雌ともに漁獲が増大し、雄で25t増の302t、雌で50t増の171tでした。

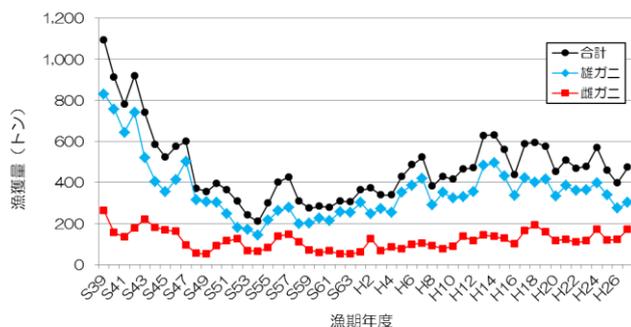
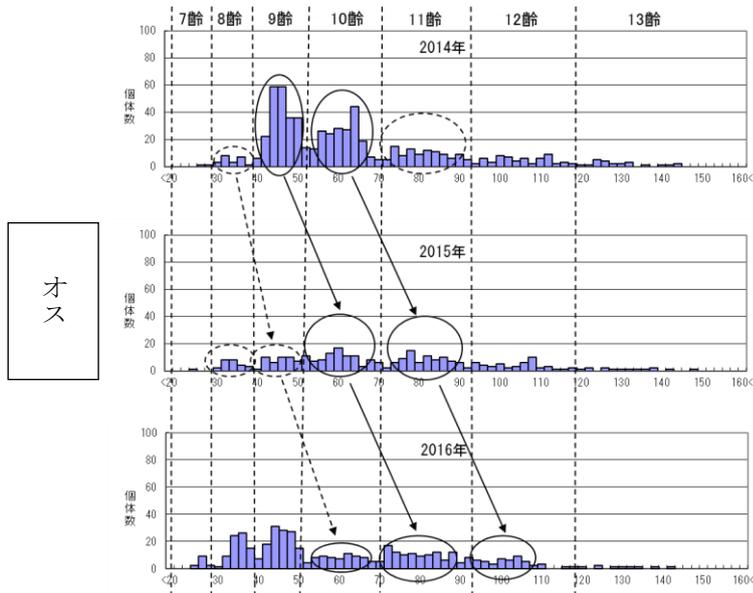


図1 ズワイガニ漁獲量経年変化

資源状況 (図2)

雄について見ると、今年の漁獲の主体となる12齢は資源水準が比較的高く、あわせて、今年から水ガニとして漁獲の対象となる11齢も平年並みの資源水準にあることから、良好な資源状況にあると考えられます。今漁期に漁獲対象となる雄の資源量を推定したところ、昨年を上回る2,300tと算出されました。

また、雌について、漁獲の対象となるクロコ(経産ガニ)の資源量を推定したところ、昨年を下回る420tと算出されました。



漁模様

雄の漁獲量は“昨年並み～昨年をやや上回る”程度と見込まれます。

一方、雌の漁獲量は“豊漁であった昨年を下回るものの、平年並み”となることが見込まれます。

(海洋研究部 北山和也)

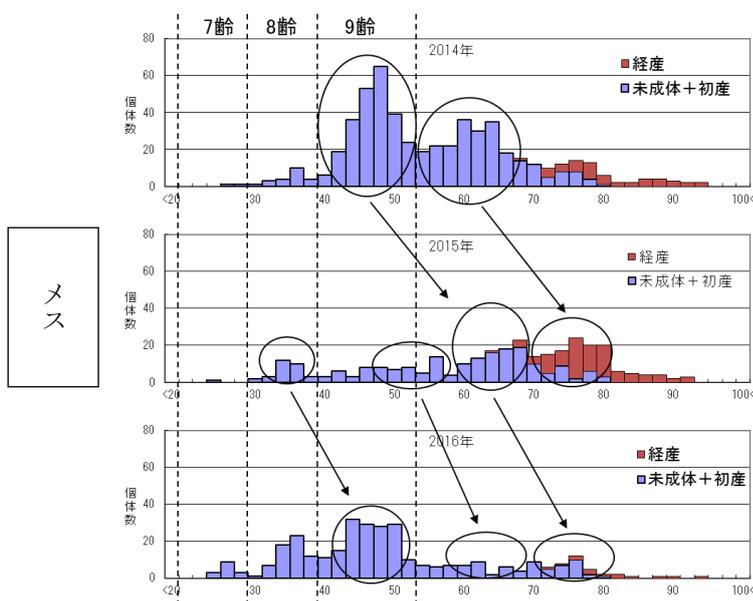


図2 トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成 (X軸:個体数 Y軸:甲幅mm)